

平成29年 9月 15日

平成29年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立御幸が原小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成29年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成29年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年 (国語、算数、理科、質問紙)

中学校 第2学年 (国語、社会、数学、理科、英語、質問紙)

4 本校の実施状況

第4学年	国語	88人	算数	88人	理科	88人
第5学年	国語	97人	算数	97人	理科	97人

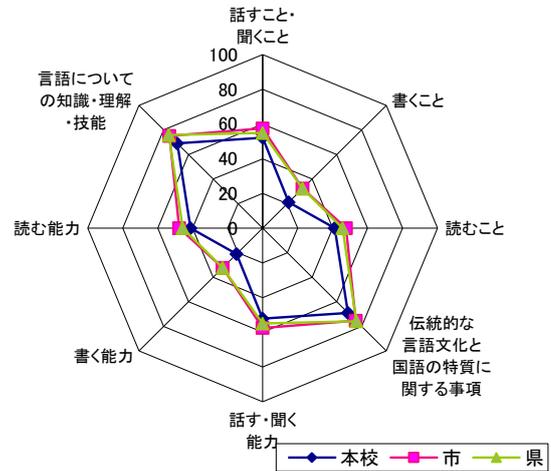
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立御幸が原小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	52.1	57.5	54.9
	書くこと	21.1	32.3	32.3
	読むこと	41.2	47.7	45.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	69.0	75.3	75.8
観点	話す・聞く能力	52.1	57.5	54.9
	書く能力	21.1	32.3	32.3
	読む能力	41.2	47.7	45.7
	言語についての知識・理解・技能	69.0	75.3	75.8



★指導の工夫と改善

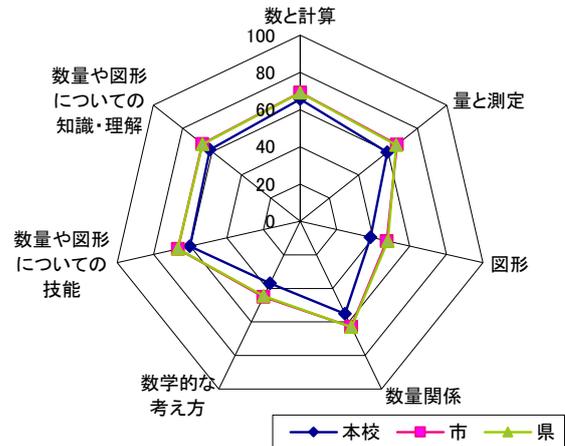
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	●賛成意見に続く言葉を15字以内で記述する問題では、市の平均を5.2ポイント下回っている。無回答も20%を超えている。	・課題に対する自分の考えを常に持つことや、自分と異なる考えに気付くことができるよう、国語の時間に限らず、話し合い活動を充実させていく。
書くこと	●レポート作成のための、文章構成についての理解が、市の平均を15.2ポイント下回っている。 ●メモとレポートを関連付けて読み取り、必要な情報を書き抜く課題では、市の平均を13ポイント下回っている。 ●「資料」と「メモ」という2つの情報を関連付けて、条件に合う文章を書く課題では、市の平均を5.7ポイント下回っている。 ●いずれの問題でも無回答が20%を超えている。	・レポートを書く活動では、基本となる文章構成を意識させて指導する。 ・内容ごとに題をつけて書かせる。 ・資料を整理したり、まとめたり自分の考えを加えたりして書かせる。
読むこと	●説明文を読んで内容を理解し、要約する問題では、市の平均を7.3ポイント下回り、無回答が20%を超えている。 ●物語文では、叙述をもとに登場人物の気持ちを想像する問題で、市の平均を16.1ポイント下回っている。また、叙述や会話文から登場人物の性格をとらえる問題で、無回答が20%を超えている。	・回答文字数に制限があることが無回答につながっていると推測されるので、自分の考えを限られた文字数で書くことを経験させる。 ・段落相互の関連と、事実と意見を関連付けて、内容を読み取る指導を行う。 ・登場人物の心情を叙述に即して読むよう指導を行う。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○漢字は、読みも書きも無回答は少ない。 ○ローマ字の書きについては、市の平均とほぼ同じである。 ●国語辞典の使い方の問題では、辞書に表記されている見出し語を選ぶ問題が、市の平均を9.6ポイント下回っている。 ●会話文におけるかぎの使い方や、主語述語の類別の問題で、市の平均を10ポイント以上下回っている。	・繰り返し漢字の練習を行うとともに、ミニテスト等を取り入れ確実な定着を図る。また、文章の中で使用できるようにする。 ・ローマ字による書き方を理解していない児童が多いので、国語の授業に限らず、パソコンを使用して調べ学習をする時間などを通して、実際に活用しながら定着を図りたい。 ・必要な時にはいつでも、分からない漢字や言葉の意味等を調べられるような環境にし、漢字辞典に慣れ親しませる。 ・作文指導や日記指導など、様々な機会をとらえ、正しい表記の仕方を指導する。

宇都宮市立御幸が原小学校 第4学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	65.6	69.2	69.1
	量と測定	59.5	66.1	65.6
	図形	38.5	47.4	48.0
	数量関係	55.2	62.9	63.1
観点	数学的な考え方	37.0	45.1	44.6
	数量や図形についての技能	60.2	66.8	66.8
	数量や図形についての知識・理解	61.6	66.6	66.5



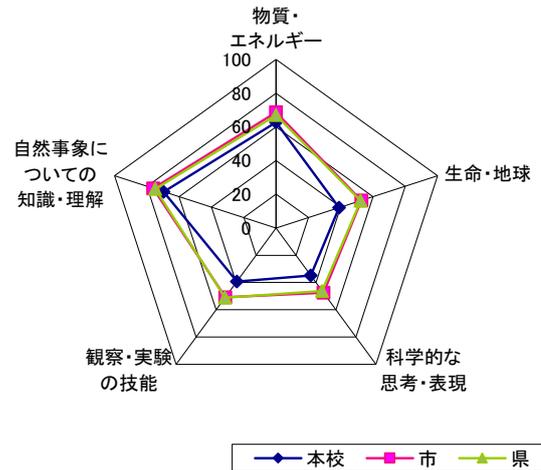
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○数直線の数の読み取りでは市の平均を上回った。また、3位数・4位数の足し算引き算、分数の理解では市との差が0.5ポイント以下または同等であった。基礎問題は全体的に、平均は少々下回るものの県と市と大きな差は無い。</p> <p>●整数から小数を引く計算、わり算のあまりの処理の仕方の問題では、7ポイント以上下回った。</p> <p>●活用問題では、無回答率が3割から4割を越えている。無回答率は市の2倍となっている。</p>	<p>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</p> <p>・小数の引き算は、一部の児童の理解が進んでいないので、個別に指導を行う。</p> <p>・基礎問題については、フォローアップ問題などを活用して復習を図る。</p> <p>・活用問題については、基礎的な理解を図った上で、問題を解く手順を押さえながら解く指導を行う。文章を確実に読み取る力の育成も図っていく。</p> <p>・お互いに考えを話しあうペア学習やグループ活動で、一人一人が確実に問題に取り組むようにさせ無回答を減らしていく。</p>
量と測定	<p>○時間の単位の換算はわずかではあるが市の平均を上回った。</p> <p>●はかりに示された重さの読み取りは、5ポイント、およその重さを答える問いでは、8.4ポイント、市の平均を下回った。</p> <p>●時刻表から出発時刻を答える活用問題では、12.9ポイント下回った。</p>	<p>・はかりの読み取りは、一部の児童の理解が進んでいないという結果であったので、個別に指導する。</p> <p>・重さの見当を付けるなど、学んだことを実際の事実や生活と結びつける力を着けさせる。</p> <p>・問いの意図を的確に捉えられるよう、表に書き込んだり図に表したりする解き方を指導する。</p>
図形	<p>●図形については全体的に理解が進んでいない。どの問題も市の平均を3から14ポイント下回り、正答率も50%程度と低かった。</p> <p>●作図の問題は無回答率が高くなっている。</p>	<p>・作図の問題について、理解できている児童とそうでない児童がいるので、習熟度別に指導を行うとともに、問題に取りかかれない児童には、個別指導を行う。</p> <p>・直径と半径の長さの関係や、コンパスの長さを写し取る使い方を指導する。</p>
数量関係	<p>○式が表している意味を読み取り、適した答えを選ぶ問題は、市の平均を2.2ポイント上回ったが12.6%の児童は無回答であった。</p> <p>●線分図に表す問題や線分図を読み取って値を出す問題が、市の平均を下回った。</p> <p>●グラフや表の数値や内容を読み取る問題が、市の平均を13.5～15.4ポイント下回った。</p>	<p>・数や量を線分図に表す学習を普段の授業の中で多く取り入れる。</p> <p>・線分図では、数や量の見当を付け、数の大小やそれを示す位置の見取りができるように指導する。</p> <p>・表とグラフの書き換えのときは、単位や目盛り注意到描くことを徹底する。</p>

宇都宮市立御幸が原小学校 第4学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	62.7	68.6	66.9
	生命・地球	39.0	52.8	52.4
観点	科学的な思考・表現	34.8	47.4	46.2
	観察・実験の技能	39.3	50.8	51.1
	自然事象についての知識・理解	69.6	76.1	74.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ●正答率が県平均、市平均より5ポイント以上下回っていたものは、はかりの操作の仕方、磁石の性質、電気の大問である。 ●電気の大問に至っては、小問1「回路をつくる際の導線の安全な繋ぎ方がわかる」の正答率が県、市平均より15ポイント以上下回っている。小問2「1つの豆電球と乾電池を使いあかりがつく回路を選ぶ」では正答率が県、市平均より8ポイント以上を下回っている。2つのことから、豆電球と電池のつなぎ方はわかるが、なぜそのつなぎ方をしなければならないのか理由を説明することができないことが伺える。 ○「虫眼鏡で集光した所の大きさや明るさの変化がわかる」問題においては、県平均より、6.5ポイント上回っている。実験を行ったときの体験活動に楽しさや驚きがあり、よく記憶していたと見る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に正答率が低いので、3年生の復習問題を実施し、定着を図る。 ・虫眼鏡の集光の正答率が高かったので、観察・実験を通じた活動を中心に、驚きや不思議がる活動での称賛を推進する。 ・電気の大問より、自然の事物・現象についての説明や理由の考察を難しくとらえていることが分かった。このことから、観察・実験で分かったことをもとに、どんなことが考えられるのか話し合う活動に重点を置く。 ・家庭学習においても理科をテーマに自主学習を行うように啓発する。自主学習の成果を称賛して広めるとともに、家庭へ学習状況の周知や協力をお願いする。
生命・地球	<ul style="list-style-type: none"> ●生命・地球分野においてのみ、県と市の正答率をすべて5ポイント以上下回っている。 ●無答が多かったのは、解答時間が足りなかったためだと思われる。 ●「方位を調べる道具の名称を答える」の正答率が県と市平均より25ポイント以上下回っている。 ●「時間ごとの木の影の長さの変化を示すグラフを選択する」の正答率が県、市平均より約20ポイント下回っている。 ●「植物の成長する順序がわかる」の正答率は県、市平均を15ポイント以上下回っている。 ●「昆虫の口のようすと食べ物の関係が分かる」の正答率は、県、市平均より18ポイント以上下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・無答の問題が多かったことから、まずは問題把握、読解速度の向上を図る必要がある。理科でも国語同様、文章読解力の向上を目指し、指導していく。 ・グラフや表を読み取る能力を育成するために、観察・実験の記録(グラフや表)を扱うたびに読み取りの指導を丁寧に行う。 ・実験器具の名称が定着していない。方位磁針であれば、3学年時使う機会が少なかったと思われる。単元を越えて繰り返し使用し復習する時間を設ける必要がある。 ・木のかげの問題と植物の成長より、時間とともに変化する問題に対して苦手意識があることが分かる。時間の経過にともなう変化に注目させ、学級全体で強調して共通理解を促す場面を設ける。

宇都宮市立御幸が原小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「先生は学習のことについてほめてくれている」の質問では、県と比較して10ポイント以上上回り、市と比較しても8ポイント以上上回っている。「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている」は、肯定的回答が50%に満たないが、県や市と比較すると10ポイント近く上回っている。「授業では、自分の考えを発表する機会が与えられている」では、肯定的な回答が80%を超え、県や市と比較しても5ポイント近く上回り、「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」の質問でも、県や市よりも5ポイント以上上回った。さらに、「クラスは発言しやすい雰囲気である」の肯定的回答は96%を超え、県や市と比較すると、10ポイント以上上回る。「学級活動の時間に、友達同士で話し合っただけでクラスのきまりなどを決めている」の肯定的回答も90%近く、県や市のそれを10ポイントほど上回った。決まりを守る児童も多く、「学校に決まりを守っている」の質問には、98%近くの児童が肯定的な回答をし、県や市よりも5ポイント以上上回っている。

学級活動での友達同士の話し合いについて、肯定的にとらえており、今後も、児童の活躍の場を保証して、雰囲気の良い学級づくりに努めていく。さらに、自分が集団の中で役に立っているという価値を見いだせる支援をしたい。

授業においては、児童に発表の機会があり、その発表を認めて合える学級の雰囲気があることから、発表が得意であると回答した児童が増えたのではないかと考えられる。しかし、児童の発表に対する肯定的な気持ちや、結果とは一致していない。教師からの発問の質を上げること、教師と児童のやり取りだけではなく、児童同士のやり取りによる発言を増やして学び合いの環境を作り、発表への意欲を教科の学力向上につなげたい。

●「家の人と学校のできごとについて話をしている」「家の人は、あなたがほめてもらいたいことをほめてくれる」「自分は家族の大切な一員だと思う」の質問は、県や市の肯定的回答を若干下回った。「家で自分で計画を立てて勉強をしている」は県よりも8ポイントほど低く、「家で学校の予習をしている」は県や市と比較して10ポイント以上下回り、肯定的回答は50%に満たない。さらに、「家で、学校の復習をしている」は、県や市よりも15ポイント以上低い。「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」は、県や市と比較して7～9ポイント下回った。「時間を上手に使うことを心がけている」への解答は、県や市と比較して5ポイント近く下回った。「自分は勉強がよくできる方だと思う」「自分には良いところがあると思う」「自分が持っている能力を十分に発揮したい」「難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦している」は県や市と比較して、5ポイントから10ポイント下回った。

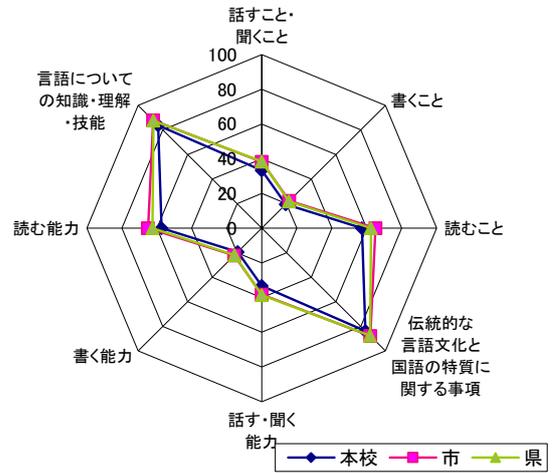
家庭での学習に関して、肯定的回答がとても低い。児童が、学校の授業をその1時間で完結させてしまい、予習や復習の大切さに気付いていないということが考えられる。授業を含めた学習環境に課題がある可能性がある。

児童が授業内容に見通しをもち、予習—授業—復習のパターンの繰り返しができる充実した授業を展開することが必要である。教師は、「めあて」を提示してその授業で学ぶことをしっかりと伝え、「まとめ」で学習内容を理解できたかの確認をし、「ふりかえり」をさせて、児童は「めあて」に対する自分の学びを顧みる。また、児童が自分から授業に参加できるように、ペアやグループ学習を取り入れて、充実した学び合いの場を作りたい。家庭学習では、宿題を通して、単元の予習復習を促すとともに、自主学習のやり方などについても、改めて学校での指導が必要である。これらにより、基礎基本の定着を図り、「できる」という自信をつけたい。発表への肯定的回答が高いことから、解いた問題の説明をする機会を増やし、称賛しながらクラス全体で学習の定着の底上げを図りたい。

宇都宮市立御幸が原小学校 第5学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	33.3	38.3	38.5
	書くこと	19.5	22.3	21.9
	読むこと	57.3	65.0	62.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	83.8	87.8	87.5
観点	話す・聞く能力	33.3	38.3	38.5
	書く能力	19.5	22.3	21.9
	読む能力	57.3	65.0	62.5
	言語についての知識・理解・技能	83.8	87.8	87.5



★指導の工夫と改善

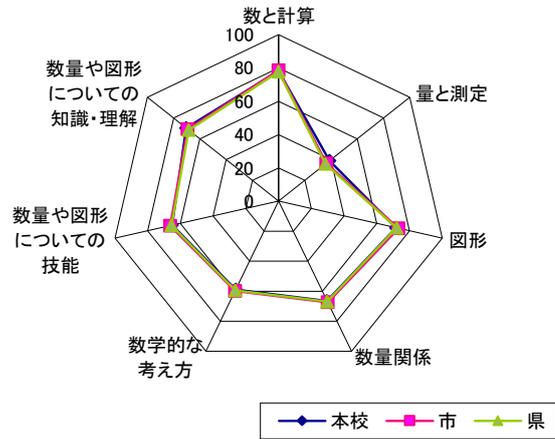
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> ●正答率は33.3%で、県や市の平均より約5ポイント下回っている。 ●話し合いの場面の問題では、司会の役割を意識して話し合いを進める設問の正答率が低かった。 ●話し合いの内容を聞き取ることはおおむねできるが、相手や目的に応じて、考えの根拠を示しながら筋道を立てて話す内容を書く設問の正答率が低かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学級や小集団の話し合い活動で、司会や提案などの役割を果たしながら、進行に沿って話し合うことができるように指導する。 ○自分の考えや意見を発表することに苦手意識をもつ児童が多いので、朝の会や帰りの会のスピーチタイムなど話す機会を多く設ける。また、ただ話すだけでなく、根拠に基づき理由づけをしたり事例を挙げたりしながら、筋道を立てて話すことができるように指導する。
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> ●正答率は19.5%で、県や市の平均よりやや下回っている。 ●リーフレット作成の問題では、大問に書かれた文章と設問に書かれた文章の情報を合わせた上で解答する問題の正答率が低かった。 ●設問に書かれた会話文を基にして、リーフレット内の文章の続きを考える問題での無回答率が目立った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○様々な情報から文章を構成していけるよう、文章の要約や調べ学習での情報の精選の方略を指導する。 ○自分の考えや意見を文章化し、発表することに苦手意識をもっている児童がいることが書く力に影響していると考えられる。情報を根拠として自分の考えを書く際、根拠を明示した文章が書けるよう指導する。
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> ●正答率は57.3%で、県の平均より5.2ポイント、市の平均より7.7ポイント下回っている。 ●説明文では、設問の意味を適切に捉え、文章の内容を読み取る問題で、物語文では、叙述をもとに登場人物の気持ちを読み取り、設問の条件に合わせて答える問題で、それぞれ正答率が低かった。 ●文章の内容を読み取り、文中から適切な言葉を書きぬく設問の正答率が低かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○説明文では、段落どうしのつながりを意識しながら読むように、物語文では、登場人物の気持ちを叙述に即して読むように指導する。 ○読書量の個人差が大きく、正答率の低さや児童の学力差に影響していると考えられる。朝の活動での読書の時間を確保したり図書室の利用を推進したりし、学年の発達段階に合わせた内容の本が読めるように指導する。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ●正答率は83.8%で、県や市の平均より約5ポイント下回っている。 ○漢字の読みについては県の平均とほぼ同じであり、定着していると思われる。 ●読むことに比べ、書くことでのつまづきが目立った。県の平均を下回っている。 ●接続詞については理解している児童が多く見られるが、修飾語についてのつまづきが目立った。 ○漢字辞典の使い方、慣用句については、おおむねの児童が理解していると思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○書く活動の際には、既習の漢字を積極的に使うよう指導する。 ○分らない漢字や言葉の意味等は辞書を進んで活用し、漢字辞典に慣れ親しませる。 ○補助教材を活用し、繰り返し漢字の練習をするとともに、ミニテスト等を多く取り入れ定着を図る。

宇都宮市立御幸が原小学校 第5学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	78.2	78.6	77.7
	量と測定	38.8	36.3	35.7
	図形	71.8	73.3	72.1
	数量関係	66.5	67.4	66.9
観点	数学的な考え方	58.9	59.9	59.4
	数量や図形についての技能	65.1	66.3	65.5
	数量や図形についての知識・理解	70.4	69.4	68.5



★指導の工夫と改善

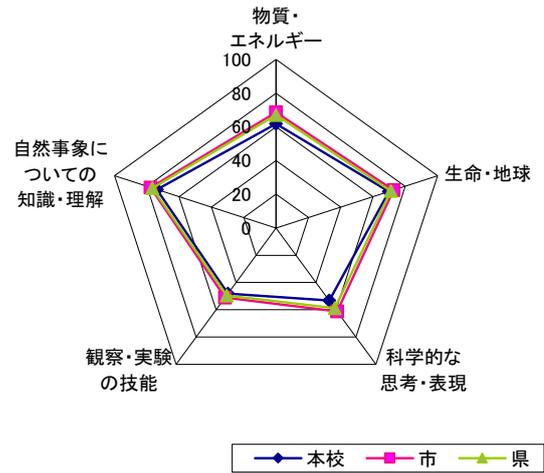
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○正答率は78.2%で、県や市の平均よりやや上回っている。</p> <p>○3位数×2位数＝5位数の計算は、市の平均を6.4ポイント、小数(小数第1位)÷2位数の計算(割り切れるまで)は、市の平均を5ポイント上回っている。</p> <p>●3位数÷2位数＝2位数(商に空位、余りあり)の計算は、市の平均を5.4ポイント下回っている。</p> <p>●1000円以内で全部買えるかを見積もる式を選ぶ問題では、市の平均を5.1ポイント下回っている。</p>	<p>・基本的な計算方法を理解しているが、計算の難易度が上がると正答率が下がる傾向にあるので、計算の手順を丁寧に確認する。また、今後もTTや習熟度別学習を生かし、計算の能力を定着させ、様々な問題で応用することができる力を伸ばしていきたい。</p> <p>・様々な学習内容の中で見積もりの結果を基に判断したり説明したりする活動を行うことで、目的に応じた見積もり方を選択できるようにする。</p>
量と測定	<p>○正答率は38.8%で、県の平均より3.1ポイント、市の平均より2.5ポイント上回っている。</p> <p>○複合図形の面積を求める式を選択する問題は、市の平均を6.5ポイント上回っている。</p> <p>●図をもとに180度より大きい角度の求め方を説明する問題は、正答率が23.4%で、市の平均を1.6ポイント下回った。</p>	<p>・何通りか解き方がある問題では、言葉、数、式、図を用いて考え、説明する活動を設定することで、解き方を比べ合い、相違点に気付かせていきたい。</p> <p>・角の学習では、直角を基にして、角の大きさが90°、180°、270°より大きい小さいなどを判断するなど、まず、角の大きさについての感覚を身に付けさせていく。</p>
図形	<p>●正答率は71.8%で、県の平均とほぼ等しく、市の平均より1.5ポイント下回っている。</p> <p>○立方体の展開図から、ある面と平行な面を選ぶ問題は、正答率が89.4%で、市の平均を2.6ポイント上回っている。</p> <p>●与えられた2辺の続きをかいて、平行四辺形を完成する問題では、市の平均を5.5ポイント下回っていた。一方、無回答率は10.6%で、市の平均を5.5ポイント上回っていた。</p>	<p>・作図の仕方を指導する際には、図形の性質を確認することで、理解が深まるようにする。また、ペア学習などを取り入れ、お互いに説明しながら作図する活動を行うことで、作図の仕方を理解させたい。</p> <p>・立体図形を観察したり、構成したり、分解したりする活動を通して、立体図形の見方を広げていけるように指導する。</p>
数量関係	<p>●正答率は66.5%で、県や市の平均よりわずかに下回っている。</p> <p>○基石の並べ方(順番)と基石の個数の関係を式で表す問題は、正答率が77.7%で、市の平均を13ポイント上回っている。</p> <p>●1つの式に表し、おつりを求める問題では、市の平均を9.6ポイント下回っている。</p> <p>●2つのグラフから、正しくない説明を選ぶ問題では、市の平均を6.8ポイント下回っている。</p>	<p>・いろいろな場面や問題を式に表したり、式から場面や一般的な関係を読み取ったりする活動を通して、式が表す意味を理解できるようにする。また、一つの式に表すことには、数量の関係を簡潔に表すことができるよさがあることが分かるようにし、四則を混合させたり、()を用いたりして、一つの式に表すことができるようにする。</p> <p>・グラフの読み取りでは、表されている事柄が何なのかをとらえ、読み取りたい事柄を明確にすることを指導していく。</p>

宇都宮市立御幸が原小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	61.8	68.6	67.0
	生命・地球	69.9	72.7	71.1
観点	科学的な思考・表現	53.2	61.2	58.8
	観察・実験の技能	48.2	51.0	49.5
	自然事象についての知識・理解	73.8	77.7	76.6



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ●領域の正答率は61.8%で県平均より5.2ポイント低く、市平均より6.8ポイント低い。 ○水や金属の温まり方についての理解がよくできていた。 ○大きさは同じでも物の重さに違いがあることを理解し、正しい実験の仕方についての理解がよくできていた。 ●金属でできたふたを温めた時の様子についての問題の正答率が低く、金属の熱の伝わり方についての理解に課題がみられる。 ●やかんでお湯を沸かした時の水の変化を問う問題の正答率が低く、水を熱したときの状態変化についての理解に課題がみられる。 ●記号を選ぶ問題に比べ、文字を書き入れたり、説明したりする問題の正答率が低い。十分に理解していないことが伺える。 	<ul style="list-style-type: none"> ●実験したことや学習したことを自分たちの生活の中で経験する事象と関連付けて考える習慣を身に付けさせるよう、授業や日々の生活の中で指導していく。 ●物質・エネルギーの領域を指導するに当たっては、めあてを明確にし、予想を立てて実験を行い、結果をまとめ、考察をするという学習の展開を大切にして指導することで、科学的な思考力を高めていくようにする。また、結果や考察を言語化することにも丁寧に指導し、理解と定着を図っていく。
生命・地球	<ul style="list-style-type: none"> ●領域の正答率は69.9%で県平均より1.2ポイント低く、市平均より2.8ポイント低い。 ○天気の様子から1日の気温の変化の様子を推測することや、数時間ごとの影の動きの理解がよくできていた。 ○人の腕を曲げたり伸ばしたりするときの筋肉の様子についての理解がよくできていた。 ●星座の動きについての理解が不十分である。 ●月の方位を正しく調べる方法についての問題の正答率が低かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ●観察や実験を重視するとともに、インターネットやDVDなどの映像資料を活用して、具体的なイメージが持てるようにし、知識の定着を図っていくようにする。 ●観察や実験をするときには、一人ひとりが十分な時間をかけて取り組めるよう、時間の取り方や器具の個数、グループの人数などを工夫しながら指導にあたる。また、観察や実験のポイントを具体的に示すなどして活動時の視点をもたせるようにする。

宇都宮市立御幸が原小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○アンケート全83項目の内、26項目が県・市の平均と比べて肯定的に上回った。その中でも、特に上回っていた内容は、「クラスは発言しやすい雰囲気である」「学級活動の時間に、友達同士で話し合っただけのきまりなどを決めていると思う」「授業の最後に、学習したことをふり返る活動をよく行っている」の3項目である。

続いて、「勉強していて、『不思議だな』『なぜだろう』と感ずることがある」「学習して身に付けたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う」「難しい問題にであうと、よりやる気がでる」「先生は学習のことについてほめてくれる」「できるだけ自分ひとりの力で課題を解決しようとしている」「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる」「授業で扱うノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いている」「学校の決まりを守っている」が県・市の平均を上回っていた。

●アンケートの全83項目の内、46項目が県・市の平均と比べて下回っていた。特に下回っていた内容は、「漢字の読み方や言葉の意味が分からないときは、辞書を使って調べている」「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている」「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい」「自分にはよいところがある」の4項目である。

続いて、「家で、自分で計画を立てて勉強している」「家で、学校の授業の復習をしている」「家で、学校の授業の予習をしている」「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している」「将来の夢や目標をもっている」「自分の行動や発言に自信をもっている」「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」が県・市の平均を下回っていた。

今後の指導の重点

- ・辞書を引くことに慣れ親しむために身近に辞書を置き、漢字の読み方や言葉の意味が分からない時には進んで辞書を引き、自ら調べて問題を解決していけるように指導する。
- ・学校において、総合的な学習の時間やその他の調べ学習など、分からないことを本やインターネットを積極的に活用して主体的に調べることができる時間を設ける。また、じっくり調べることで、発表したいという意欲につなげていきたい。
- ・児童が安心して生活できる環境を維持し、自分の考えや意見を安心して言えたり、文章にして相手に伝えられたりできるようにしていく。
- ・日々の生活の様々な場面で、児童一人一人のよさを見つけ、認め、ほめることを積極的に行っていきたい。
- ・家庭との連携をより密に図りながら、授業の予習・復習の習慣化を図れるようにしていきたい。

宇都宮市立御幸が原小学校 (第4・5学年共通) 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
○主体的・対話的で深い学びを追求する授業づくりの推進 ○個に応じた指導の工夫と学習内容の定着を図る指導の強化	○友達の意見に対して温かい反応を示し、自分と友達の考えをつなぎ、ねらいにせまるために授業の質を高めていく指導過程の工夫 ○他の考えを的確にとらえ、比較したり、関連付けたりしながら自分の考えをもち、根拠を挙げて自分の考えを表現する能力・態度の育成 ○言語活動の充実を目指した授業を工夫し、校内研修の充実と、一人一授業公開の実践と授業反省会による指導法の共有化 ○各授業における「めあて」「まとめ」「振り返り」の提示・活動、板書・ノート指導の工夫	○自分の考えや意見を発表することに苦手意識をもつ児童が多い。自分と異なる友達の意見への気付きが希薄である。 ○問題を読み取る力や友達の意見をとらえる力が弱い。 ○まとまった文章の作成に慣れていない。 ○体験や実験、見学等での驚きや気付きには素直に反応するが、書いて理解していく活動にまで結びついていないことが多い。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
○発言への苦手意識がある。 ○友達の意見や自分と異なる意見への反応が弱い。 ○問題を読み取る力が弱い。 ○自分の考えを文章化する力の低下。 ○書いて理解することが難しい。	○授業形態の改善と発言の奨励・称賛 ○話し合い活動のさらなる推進 ○読書活動の推奨や文章の読解練習 ○文章を書く活動の推進 ○家庭での「復習」の奨励・啓発	○日常的に、学習意欲を喚起する授業の仕掛けを工夫するとともに、活発な発言を奨励し、称賛を繰り返す。 ○ペア活動や4人組グループでの話し合い活動を全教科領域で日常的に繰り返す。友達からよさを学び続けることができる学習形態の工夫をする。 ○児童同士で本の紹介をし合い、週2回の朝の読書活動の充実を図るとともに、「朝の5分ドリル」で読解力の鍛錬を続ける。 ○日記や自学帳で、日常的に文章を書く活動を継続させ、授業で分かったことや自分の考えを明確に書くことができるように継続的に指導・支援する。 ○家庭学習の充実を学年や学級で啓発し、家庭の協力を仰ぎ、優れた内容や長期継続に努めた児童のノートは掲示して称賛するとともに、カードや賞状の贈呈をして、学習意欲の喚起を図る。